

復 命 書

18 年 11 月 20 日

静政会 代表

伊東 稔浩 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

記

1 日 程

18 年 11 月 19 日(日)

2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

東京都千代田区

第 3 回ローカルマニフェスト検証開会参加

3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

「ローカルマニフェスト最新事情報告」

「ローカルマニフェスト検証報告」

「ローカルマニフェスト推進 3 団体提言」 等

4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

第 3 回ローカル・マニフェスト検証大会

選挙を変えるツールとして、各級の選挙で作成する例がかなり増えてきている。そんな中、早稲田大学マニフェスト研究所と、マニフェスト推進首長連盟・ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟主催の上記の大会が開催された。北川正恭研究所所長の挨拶から始まって、①「ローカル・マニフェスト最新事情報告」②「ローカル・マニフェスト検証報告(市区長版)」③「ローカル・マニフェスト検証報告(県知事版)」そして、④ローカル・マニフェスト推進 3 団体提言が行われた。①の報告。恵庭市長のマニフェストは、感動できるマニフェストとして大好評。わかりやすく、親しみやすく、共感してもらえる、候補者の思いを市民に届けるものとなっている。候補者は商品。他と差別化するものでなければならない。何の為に市長になるのか。市長になって何をしたいのかを伝えるものである事が何より大事だ。意外と身近な所にチャンスがあるという。絵本仕立てのマニフェスト。とても好感が持てる。作れるようでなかなかできないと思う。次のスピード開票で意識改革を訴えた相馬市長の挑戦。職員の意識を変えて、25 分のスピードで終了した。開票時間の短縮は行政改革の進捗度を示す指標の言葉が印象的だ。時間短縮イコール人件費削減。公選法は正確性ととともに、迅速性も求めている。この運動の拡大が望まれる所だ。不明票の解消方法が必要。それには、プロを遣えばいい。他 3 人の事例報告があった。地域課題を政策に高めていく事は、究極の住民参加と言える。②検証大会評価手法について、4 市長が検証された。アウトプット・アウトカムそれぞれ評価対象になっているが、達成見込み・達成度など書き出し形式で検証。とてもわかりやすい。わが市も、今期は、マニフェストを制作するといっているので期待している。枚方市の市民評価委員検証と市長の自己評価の違いが面白い。③佐賀県知事はマニフェスト第 1 期生。岩手県、埼玉県、神奈川県、福井県それぞれのマニフェストの検証はとても分厚い。そんな中、福井県の福井元気宣言は中味が具体的で分かりやすい。実行過程、中間評価、結果評価かなりの検討が必要で、外部評価も誰がやるかが問題のようだ。④最後にローカル・マニフェスト型選挙の一層の推進のための公職選挙法改正に関する提言が行われた。主な内容は、選挙においてもマニフェストの頒布を可能にする。頒布場所も検討する。ホームページでマニフェストの公開を可能にし、メールでの配信を可能にするなどだ。せつかく作成しても、絵に書いたもちにしない方法を是非とも検討すべきだと思った。

2006・11・19